

巻頭言

明日から盆の入りです。去年と同じ酷暑の日々が続いています。テレビはリオのオリンピックの報道でにぎわっています。甲子園の高校野球も同様に日本中をわかっています。

さて今年の夏は七月十三日天皇陛下の「生前退位」のご意向の第一報がNHKの七時のニュースで報じられ日本中に大きな衝撃が走りました。当面この衝撃は収まらないでしょう。

敗戦以来七十一年アメリカの日本占領は厳然と続いています。安倍総理の現実的リーダーシップが日米関係を良好に維持しています。それはつまりアメリカの属国としての優等生ということに他なりません。しかし安倍総理はそろそろ日本を独立させようとしています。その時に新憲法順守の優等生として日本中から敬愛されている今上陛下のご意志の軽妙なご発言はおおげさな言いつと一寸した原爆に匹敵する程のものであります。つまり日本国のあり様を日本国の意志として堂々と発言したということなのです。しかしこれが真にそうであるかどうかは私のおそらく知らぬことです。さてこうしてわが国は歴然と今年から変わろうとしています。政府は憲法改正の手續きを何れ近い将来とるでしょう。

私は世界は音を立てて一変しようとしていると思います。その真実はつまり我が日本国そのものがその主体であることです。今年の十一月アメリカの国体が一変します。つまり同時に日本国は再生を強制されますが、その実質はすでに今上陛下が自らそのご発言で発動されたのです。